

図書館だより

都城工業
高等専門学校
図書館

No. 75

JULY 2014



「宮崎県 浄専寺の枝垂桜」

特集

こんな本に出会った

都城工業高等専門学校
Miyakonojo National College of Technology

シュヴァイツァー

—自分に対する約束—

図書館長 望月高明 1

特集

こんな本に出会った

「読書」という繋がり	機械工学科 増井創一	4
高専間交流のスタート	電気情報工学科 鶴沢偉伸	5
とある教員の多様性 (ディヴェルシテ)	電気情報工学科 小林洋介	5
本を読むきっかけの本	建築学科 大岡優	6
本から学べ	建築学科 浅野浩平	7
何を読むか？ どう読むか？	一般科目(理科) 中島一	8

教員交流を通して感じたこと、考えたこと

機械工学科 山中昇 9

新入生オリエンテーション開催される 10

平成26年度図書委員 11

図書委員長と副委員長になっての抱負 11

委員長 仲澤知剛 (4年電気情報工学科)

副委員長 郡勇人 (4年機械工学科)

平成26年度図書館カレンダー

図書館からのお知らせ 12

夏季休業期間中の長期貸出について

夏季休業期間中の開館について

編集後記 12

●表紙「浄専寺の枝垂桜」

周りを九州山地の1,000m級の山々に囲まれた、自然豊かな町、宮崎県五ヶ瀬町。その五ヶ瀬に春の訪れを告げるのが、浄専寺の枝垂桜である。

西栄山浄専寺(せいえいざんじょうせんじ)は、1615年に開山されたという古寺である。枝垂桜は、この寺の第九代住職が、江戸時代後期の西本願寺参りの際、京都祇園から持ち帰ったものと伝えられている。

この枝垂桜の大木(幹周り約3m・高さ約15m)は、樹齢250～300年といわれ、昭和40年に宮崎県の天然記念物に指定されている。

四月初旬、垂れ下がった枝に淡紅色の花をいっせいつけた姿は、荘厳である。これほど魅了される枝垂桜を、私はほかには知らない。

五ヶ瀬町内にある約300本の枝垂桜は、すべて浄専寺から株分けしたものだという。棟方志功も、かつてこの地を訪れ、「浄専寺の花の柵」(「続 北海道棟方板画」)という作品を残している。

撮影 図書館長(一般科目) 望月高明



シュヴァイツァー —自分に対する約束—

図書館長 望月高明

—

アルヴェルト・シュヴァイツァー(1875～1965)の名前を聞いても、恐らく本校の学生の多くは彼がどんな人物であるか知らないであろう。また、その名を聞いたことのある人でも、その具体的なイメージとなると、ほとんど断片的なものにすぎないであろう。後述するごとく、彼は哲学者・神学者・音楽家・医師など、様々な方面においてその偉大な才能を発揮した20世紀を代表する知の巨人である。そして、本校のほとんどの学生がシュヴァイツァーの名前を聞いて、彼について具体的なイメージを持ち得ないという事実には、私は一種の軽い目眩のようなものを覚えずにはいられない。こうして20世紀を代表する知の巨人は、現代の若者にとって路傍の人のごとく、いとも簡単に忘れ去られたのである。因みに私の手許には『シュヴァイツァー著作集』全19巻が所蔵されている。このように彼の著書の主要なものが邦訳されているということは、かつてシュヴァイツァーの存在がわが国の読書人の中に大きな地位を占めていたことを物語っている。(右著作集の刊行は1956年から始まったから、彼の存命中のことである。)

さて、シュヴァイツァーの没後、わずか50年経つか経たないかの現在、現代の若者のほとんどがその名前を聞いても具体的なイメージを持つことができない。このことはすべてを若者の責任に帰することは固よりできない。わが国の人たち(その多くは思想に関心を有する知識人である)がシュヴァイツァーと主体的に対決して、その思想が、現代が直面する様々な困難な問題に対してはやはり積極的な有効性を保持していないとか、それが現代の到達した学問水準に照らして検証に堪え得ないとして破産を宣告せられたというのであれば、話はもちろん別である。そうであれば、彼の名前を聞いて若者の多くが具体的なイメージを持ち得ないといっても、それはむしろ当然である。それはいわば思想史における“骨董品”のようなものであるから、一部の専門家か好事家の間で問題とされていれば、それでよいであろう。現代の若者たちがわざわざそのような過去の遺物に関心を見出す必要などないのである。

それでは、シュヴァイツァーの思想というのは、現代の社会において何らの有効性も有しない破産した思想、現代の若者が回顧するに値しない過去の遺物にすぎないのだろうか。否、私はそうは思わない。なるほど、シュヴァイツァー没後の50年の間に、彼がその著述によって直接関与した哲学や神学における発展には非常に目覚ましいものがあるから、その個々の領域の細部については色々の誤謬が指摘されて、それに伴って多くの訂正や修正が免れないであろう。しかし、シュヴァイツァーが没して50年が経過して、改めて現代のわれわれはその深い喪失感に気付きつつあるのではないだろうか。私は今一度、様々な問題によって鋭く挑戦を受けている現代の世界は、シュヴァイツァーの提示しているパースペクティブを再び認識すべき時に直面しているのではないかと思う。

しかし、ここではシュヴァイツァーの思想について論じようとしているのではない。(私のように彼の著作集を所蔵しているにもかかわらず、また、その人と思想に関心を有していながら、怠惰な故にその著作と十全な対決をしてこなかった者に、シュヴァイツァーのことをそもそも云云する資格などないのである。この資格の有無ということは、思想を論ずる場合、厳格に適用されなければならない)。

曩にシュヴァイツァーが哲学者、神学者、音楽家、医師など、様々な方面においてその偉大な才能を発揮した20世紀を代表する知の巨人であると言った。その足跡をざっと辿ってみると、彼は18歳でシュトラスブルク大学に入学し、神学と哲学を学んだ。パリでの勉学後、『カントの宗教哲学』という論文で哲学博士の学位を得た。更にベルリンに学び、1900年に神学博士の学位を得た。彼はその主著『イエス伝研究史』によって神学界に世界的地位を築いた。神学的著作には『パウロの神秘主義』、その他がある。また彼は音楽的な天分にも恵まれ、バッハ研究者並びにパイプオルガンの演奏者としても世界的に有名である。

それでは、シュヴァイツァーはいかなる理由によって医師を志したのであるだろうか。1905年、彼は赤道アフリカ住民に伝道する医師としての資格を得る目的で、医学を学びはじめると友人たちに公表し、翌06年、大学におけ

る地位を辞した。彼のこの突然の生の方向転換は、当時においてはほとんど狂気の沙汰として理解不能なものではなかったろうか。しかし、その行為は、シュヴァイツァーが21歳の時に「自分に対して約束」したことの履行に他ならなかった。次はその21歳の時のことばである。

ある晴れた夏の朝……眼がさめたとき、私はこの幸福をあたりまえのこととして受け取ってはいけない、そのおかしさとして何か与えなくてははいけない、という考えが浮かんだ。外で鳥が鳴いている間、私はこのことを静かに考えてみて、起床するまでに次のことを自分に対して約束した。即ち自分は三十歳までは学問と芸術のために生きてよいことにするが、それ以後は人類への直接奉仕に身をささげようと。……今や問題の解答が発見せられた。外面的な幸福に加えて今や私は内面的な幸福を持つようになった。

この将来に計画された仕事の性質がどんなものであるかはまだ私に明らかではなかった。それは事のなりゆきが導いてくれるに任せた。(『わが生活と思想より』) 小文の表題が上の文から取られたことは固よりである。なお、神谷美恵子氏はその『生きがいについて』において、上の文を引用した後に、シュヴァイツァーが模索の中で偶然にコンゴ医療への呼びかけに接したとして、彼の次の言葉を引いているが、それは私には誠に感銘が深い。「『主のよびかけに対して「主よ、私がいります」と単純に答えられる男女を教会は必要としている』。これが(コンゴ伝道に関する説明書の)結語であった。これをよみおえたとき、私は静かに私の仕事を始めた。私の模索はおわったのであった。(傍点は望月) なお、ここでは資料を裸のまま提示するに止どめ、その解釈は一に読者の深き心に委ねることとしたい。

二

思えば私達は自分に対して様々な約束をする。それは小にしては日常起居の瑣事から、大にしては人生の一大事にまで及んでいる。そして、我が身を顧みて言えば、意志薄弱の私は自分に対する約束をその都度いとも簡単に踏みじって来た。それは我が身を顧みて誠に慚愧たるに堪えない。情けないの一語に尽きる。私はもう既に十分に年を取っていて、春秋に富んでいる学生と比べて残された時間は余り多くない。であるから、私はここで自分に対して、1つの約束をしようと思う。それは学問に関することである。私は学校を卒業して以来、現在に至

るまで宋明時代の儒学思想を研究している。朱子学とい、陽明学という学問は、いずれも複雑な思想構成を持ったものなのである。しかも、朱王両学はその影響するところは単に中国に止どまらないで、朝鮮並びにわが国にも及んでいて、その国々において個性的な人間に担われて、それぞれ独自の展開を遂げている。従って、1人の人間が朱王両学の東アジア世界における展開の跡を辿るということには、非常な困難が立ちはだかっている。であるから、私のように信も薄く、学も浅い者が宋明学を対象としてきたことが正しかったのかというと、それはよく分からない。あるいは蝶々が花から花へと蜜を求めて軽やかに移っていくように、その都度の関心の赴くに依じてその対象を換えていくやり方もあったかも知れない。しかし、私はそのようにはしなかった。どこまでも宋明学を対象として、それに固執してきた。思えば学問というのは恐ろしく地味な行為でそれはある。殊に今日のようにほとんど朱子学や陽明学が忘れられた時代において、朱王両学の研究を続けるということはそうであると思う。これ熊本実学派の祖大塚退野(1677～1750)が、夙に「我輩は抱経伏窮山候事、当然之勢にて御座候」(『孚齋存稿』三)と言う所以である。江戸中期の人退野ですら既にかかる覚悟を持つことを避けられなかったのであるから、現代のわれわれにおいてはそれはなおさらのことである。また、退野には旧友が“廢学”に至ったことを嘆ずる次のごとき言がある。「陶齋も廢学と承り及申候。儲々旧友如此志立不申候事、歎するにたえ申候」(同三)。私は自分の学問に限っていえば、僻隅の地において孤影悄然として研究を続けてきた。その研究は、論文や著書を外部に公表するという形で細々と進められてきた。もっとも、論文を書くといっても、私の場合は今年は何とか書けたけれど、来年は果たして書けるかどうか分からないというところで、常に書いている。そして、この感慨は年を追うごとに一層深くなっている。

才もうす菲く、学も浅い愚かな私が、それにもかかわらず“廢学”に至らなかつたのは、退野が言うように私が志を立て得たからでは固よりない。私は既に年を取っているけれど、自分の過去を回顧するような趣味など持っていない。何よりも学術面において回顧するに足るような成果など何一つとしてない。思えば私が学生の頃は、その道において掛け値なしに「碩学」と称するに足る大学者が幾人もいた。しかし、私自身が次第にかつての「碩学」の年齢に近づいてきた時、果たして周囲にそういう碩学が何人いるだろうか。かかる物言いが、中国学に従事し

ている学者に対していかに非礼を極めたものであるかを、固より承知していないのではない。(従って、このことが学界の事情に疎い私の井底の蛙の見に似た単なる勘違いにすぎないとするならば、かえって学界にとっては歓迎すべきことである。)しかし、かかる事情は何も中国学にのみ限ったことなのではない。私が非礼をも顧みずこういうことを言うのは、われわれは好むと好まざるとにかかわらず、あらゆる領域において“乏しき時代”を生きることを余儀なくされているという事実を指摘したいがために他ならない。

ともあれ、私は宋明学に従事する者として、自分の過去の成果に胡坐^{あぐら}をかくよりは、常に挑戦し続ける者であり続けたい。自分の専門の領域において常に問題を提示し続ける一人の学者(この場合の「学者」とは、学問に志す人の意であって、日本語のそれとは意味が同じでない)でありたい。これまで色々と自分に対して約束しても、意志薄弱な私は、一つとして成就することができなかつた。であるから、人生の終盤に向かってせめてこのことだけは固く誓いたいと思う。

朝を愛す

室生犀星

僕は朝を愛す

日のひかり満ち^{わた}互る朝を愛す

朝は気持が張り詰め

感じが鋭く

何物かを嗅^かぎ出す新しさに饑^うえてゐる

朝ほど濁らない自分を見ることがない

朝は生れ立ての自分を遠くに感じさせる

朝は素直^{すなお}に物が感じられ

頭はハツキリと無限に広がつてゐる

木立を透く冬の透明さに似てゐる

昂奮さへも静かさを持つて迫つて来るのだ

朝の間によい仕事をたぐりよせ

その仕事の精髓を掴^{つか}み出す快適さを感じる

自分は朝の机の前に坐^{すわ}り

暫^{しば}らく静かさを身に感じるため

動かずじつとしてゐる

じつとしている間に朝のよい要素が自分を囲^{かこ}ひ

自然のよい作用が精神発露^{はつろ}となる迄^{まで}

自分は動かさず多くの玲瓏^{れいろう}たるものに烈^{はげ}しく打たれてゐる

「読書」という繋がり

機械工学科 増井 創 一

私は、今年度から機械工学科に赴任しました増井と申します。私は、夏目漱石や太宰治などの書籍などは比較的によく読んで読んでいるのですが、他人から勧められたものを嫌う天邪鬼な性格の持ち主のため、本屋さんなどにベストセラーとして紹介され、並ぶ書籍をほとんど読書した経験がありません。皆さんに気に入っていただけるような書籍を推薦する代わりと言ってなんですが、今回は“読書”について私なりに思考してみましたので、つまらない話になるとは思いますがしばしの間お付き合いいただければ幸いです。

私が最近読んだ書籍について思い返してみると、そのほとんどが論文などを始めとする研究関連の書籍であり、改めて自分が味気ない読書生活を過ごしていることを実感します。ではなぜそのような書籍を好んで読んでいるかという、それらの書かれている知識などを欲しているから読んでいるのです。私は、新しい研究テーマを始めるときは常に論文等による情報収集から行います。これは、研究において、ある目標を達成するには周辺研究の調査や基礎知識の習得が極めて重要な要素となり、研究はまずそこから始めるものといって過言ではないと考えているからです。

至って当たり前のことなのですが、どんな本においても、自らが読もうとしなければならず、紙媒体であろうが、電子媒体であろうが“読書”という行為において、それが変わることがありません。そして世の中には様々な形式の書籍が存在し、その週間ごとに起きている物事を伝える新聞、研究についてのレポート、主人公たちが活躍する物語などで、変わったものでは恋文なども書籍と言ってもいいでしょう。

新聞は、世の中について知りたいため読まれ、物語は、ワクワクする感情などを得るために読まれるのだと思います。この“読書”という行為においては、活字を単に読むことが目的ではなく、著者が伝えたいことを読み取ることが本来の目的であると私は考えています。恋文など

は、著者が思いを伝えたい特定の人に向かって書く書籍であり、簡素でありながらも非常に思いが深い書籍であると言えます。どんな形式の書籍においても著者と読者の考えや思いが繋がることが“読書”という行為の真意であると考えます。

近年、若者の活字離れが深刻であり、若者はもっと本や新聞を読まなければならないという話をよく聞きます。しかし私は、むしろ若者の身の回りに活字が溢れすぎているのではないかと考えます。インターネットの発展やFacebookなどを始めてとするSNSが活発に使われるようになったことで、身の回りに非常に多くの活字が溢れているように感じます。人が処理できる容量には限度があるでしょうから、現代のように活字が溢れすぎ状態では、著者と読者との間に存在している“読書”という繋がりが希薄化していくだけだと思えます。書く側、読む側双方が繋がりへの意識を持つことが、“読書”の形骸化を防ぐ重要な鍵になるのではないかと私は考えております。

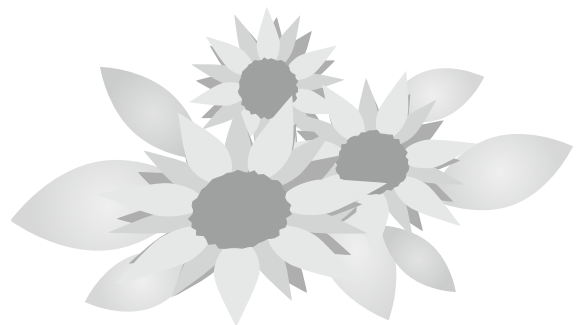
推薦図書

★こころ

夏目漱石著

★人間失格

太宰治著



高専間交流のスタート

電気情報工学科 鶴 沢 偉 伸

本高専間交流で4月より大分高専から来ました。大分高専では情報工学科で情報系の科目を担当しております。都城高専では電気情報工学科で情報系の科目を担当しています。平成20年度にも高専間交流で都城高専へ1年間だけ来ております。前は慌しく1年が過ぎ、高専によって色々と違うことだけが実感できました。今回は2年間の予定ですので、以前より時間に余裕があります。大分市は都城市より人口が多く、大分高専から中心街までバスで約20分と近い場所にあります。全国でも珍しく県庁所在地で中心街の近くにあります。

大きな町は色々便利ですが、誘惑もあります。下校の途中で商店街やゲームセンターなどに寄り道できます。また、交通事故に遭う可能性も高くなります。学生のみなさんは特に意識したことがないかも知れませんが、都城市は自然が豊かで環境の良いところです。高専を卒業して都会で働くようになると、初めてそのことが実感できます。自然に囲まれて色々な人と交流して、豊かな人間性を育むことができます。みなさんはせっかく良い環境に恵まれているのですから、高専の時間を満喫して有意義な学生生活を過ごしてください。

推薦図書

★読書も人間の幅を広げるために良いと思います。残念ながら最近は専門書しか読まなくなりましたが、これまでに読んで感銘した小説に司馬遼太郎氏の数々の作品があります。NHKの大河ドラマでも採用されているように、歴史上の人物に焦点を当てた作品が多いです。各作品は長編ですので読み始めるときは少しためらいますが、読み始めるとその面白さに引き込まれて時間を忘れてしまいます。1つの作品を読み終わると、別の作品が読みたくなるほど興味を持った記憶があります。長編に抵抗があれば、短い作品を読んでみるのも良いでしょう。司馬遼太郎氏は詳細に歴史人物を調査して書いています。

ので、小説を読みながら歴史を勉強しているような不思議な感覚になります。どの作品も面白いので1つ挙げよと言われると、決めることができないほど素晴らしい作品ばかりです。時間のある学生時代に、司馬遼太郎氏の作品をどれか読んでみることをお勧めします。

とある教員の多様性 (ディヴェルシテ)

電気情報工学科 小 林 洋 介

4月より電気情報工学科に採用されました、小林洋介と申します。専門は音声・音響工学およびデータマイニング応用で、どちらも学際領域です。基礎となる学問領域が広く、電気工学、情報科学にとどまらず、心理学、統計学、建築音響、振動工学、耳鼻咽喉学、信号数学にプログラミング・・・とかなり広い領域の知識が必要になります。このように書くと、「いっぱい本を読まないといけない分野だなあ」と思われるかもしれませんが、そうでもありません。むしろ、私は本を読むのは苦手な人間です。「推薦図書をあげてください」といわれると、マイナーな漫画や大衆小説、新書から選ぶしかない状況です。

こういった背景から、私は学生の皆さん方に限りなく近いと思っています。「漫画やゲームばかりでなく活字を読め」といわれたことは数え切れません。しかも、反骨精神に溢れた年頃も経験しましたので、「なぜ漫画やゲームよりも活字のほうがいいのか？」と聞き返したことが何度もあります。返ってくるのは「低俗な漫画よりも高尚な文学がよい」とか「モニターよりも紙の手触りが良い」といった非常に主観的な意見ばかりで、残念ながら私が心底納得できる答えは未だに得られていません。特に大学院で音声の主観品質の客観的推定に取り組んでからは、主観的な意見と客観的な分析の違いには非常うるさくなり、この手の主観

の押し売りは積極的に論破しようと秘かに誓っているところですよ。

話が少しそれましたが、私は読書行為それ自体を否定しているわけではありません。先にあげた「漫画やゲームよりも活字…」と発言している人が言いたかったことを慮ると、「人間は保守的で同じことを繰り返すから、普段接しない情報に意識的に接しなさい」という内容だったと考えることはできます。つまり、いつもと同じ漫画やゲームばかりではなく、普段読まない書籍に書いてある未知の情報に触れることで、自分自身の思考の多様性や柔軟性を養って欲しいという意味です。このように考えれば、紙の書籍も普段とは違う情報源の一つとですから、多少は頑張っ読もうかという気になるかもしれません。

もちろん、同じテキスト情報を得ることができるweb ニュースやweb 百科事典、電子書籍、オンラインの学術ジャーナルなどを積極的に読むことも非常に大切です。様々な情報に積極的に触れて思考の多様性を高めることは、情報爆発社会の現代で生き残るために非常に重要なスキルの一つであると私は考えています。付け加えると、私のような学際領域の研究者は、新しい発見を求めて常に異分野の情報にアンテナを張って思考の多様性を維持していないと研究活動それ自体が成り立ちません。

さあ、あなたも未知の情報に触れて自分の思考に多様性を持たせませんか？そこから見える世界は今までとはかなり違う世界のはずですよ。

推薦図書

★マンガ 餃子屋と高級フレンチではどちらが儲かるか？

画：武井宏文 作：林總
モノを作って売るだけでは会社は成り立ちません。エンジニアも経営に関する知識がなければ昇進した後のマネージメント業務で苦勞することが多いといわれています。この本は、どのようなビジョンで会社を経営し、自社の得意な部分を伸ばしていくかの考え方についてわかりやすく説明しています。

★競争と公平感 市場経済の本当のメリット

著：大竹文雄
ホワイトカラーエグゼンプションなど、これまでと異なる労働形態に変えることが政府を中心に検討されています。この本は、どのように働くことで労働生産性が高まるか、見かけの公平と本当の公平は何かを非常に考えさせてくれます。

★クスクスの謎

著：にむらじゅんこ
北アフリカから中東で食べられるクスクスと呼ばれるパスタがフランスの国民食となるほど食べられるようになった経緯から、その調理法の違いなど食文化史を軽快な文章とたくさんさんの写真でまとめた良書です。

「本を読むきっかけの本」

建築学科 大岡 優

こんにちは、今年度より建築学科の助教に着任しました大岡優と申します。昨年度までは、関西の大学で研究員をしておりました。専門は木質構造で、主に、寺院・町家・古民家などの伝統木造建築物の耐震性能評価を行っております。

読書についてですが、ここ最近では、自分の専門に関連するものがほとんどで、それ以外の本を読む時間があまりないのが現状です。ただ、出張や調査の際など、新幹線や飛行機の移動中には、出来るだけ小説や文学などの色々な本を読むように心がけています。本というものは、ある時代・ある地域・ある人々の社会・文化・価値観・人生観を学ぶことができ、人としての器を大きくしてくれるものだと思います。また、その内

容の情景を頭に思い描くことで、創造力をも養ってくれます。

最近の若い人はあまり本を読まないと言われていますが、皆さんはいかがでしょう。実は私も、小・中・高と大学に入るまではスポーツばかりやっていて、あまり本を読んでいた思い出はありません。このような私ですが、大学に入って最初の夏休みに、ある本を読んだことがきっかけで、本を読む面白さに気付き、そこから色々な本を読み始めることになりました。

その本は、アメリカの作家、ヘミングウェイが書いた「老人と海」です。知っている方も多いと思います。文庫本で出ており、ページ数も多くなく、あまり時間をかけずに読めます。「老人と海」を初めて読んだの

は、大学に入学して最初の夏休みの時です。大学の夏休みは2ヵ月近くあり、その長い休みを持って余していた時、ふと大学の図書館で目にしたのがこの「老人と海」でした。「老人と海」というタイトル自体は知っていましたし、先ほども書きましたが、本の厚みが薄く、気軽に読めそうだという不純な動機?で読み始めました。いざ読み始めると大変面白く、すぐに没頭してしまい、あっという間に読み終わりました。その後、図書館にあるヘミングウェイの他作品を全部借り、数日中に読み終えたことを覚えています。この「老人と海」の大まかな内容ですが、年老いた漁師が漁に行き、巨大なカジキマグロを釣るというものです。このような書き方だと特に面白みのない作品に思われますが、老人とカジキマグロとの格闘を通し、人生観や自然の厳粛さを教えてくれる作品となっています。

最初から読む本のハードルを上げると、本の面白さに気付かず、本を読むこと自体が嫌いになる可能性が

あります。「老人と海」は、それこそ短時間で読むことができますので、休日の空いた時間にでも是非読んでみてはいかがでしょうか。

推薦図書

★深夜特急

沢木耕太郎（新潮文庫）

主人公がアジアからシルクロード、ヨーロッパまで旅をする本です。海外の人々や生活との触れ合いが非常に面白い作品です。本を読むきっかけとなる本としてオススメの本です。（この本を読むと旅に出たくなりますよ!）

★小泉八雲集

小泉八雲（新潮文庫）

小泉八雲の作品集です。小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）は父がアイルランド人、母がギリシャ人で、後に日本国籍を取りました。元々外国人だった小泉八雲が書いた日本の怪奇・伝奇的な話は、現在の私達を読んでも大変面白い作品です。

「本から学べ」

建築学科 浅野浩平

本年度4月から都城高専の建築学科助教に着任した浅野浩平と申します。正直なところ、私はさほど読書をする人ではありません。よっぽど気に入った本しか読まないの、これまでに自信を持って読んだと呼べる本は、両手で数えるくらいしかありません。

読む本のジャンルは、推理小説、ホラー系、恋愛小説、図鑑、参考書と何でもOKです。本を読む一番の醍醐味は、月並みで申し訳ないのですが、やはり舞台となる土地の風景、登場人物の顔や風貌を勝手に脳内でイメージすることではないでしょうか。ベストセラーになるような小説の場合は映画になったりすることもあります。キャストが自分のイメージと合致するとなんだか少し嬉しく感じます。最近読んだ本は、別に私はハルキストではないのですが、最近出版された村上春樹の短編集「女のいない男たち」に収録されている「ドライブ・マイカー」という作品です。この作品、文芸春秋に掲載時は私の実家のある北海道・中頓別町が登場していたのですが、紆余曲折あり単行本では架空の町に変更されています。自分の故郷を思い浮かべながら読むことができる小説なんてそうそうないので、村上春樹の目線では中頓別がこう見

えているのかと楽しませて頂きました。

読書とはまた少し違うのですが、私は長い事サウンドノベルといったジャンルのゲームをしています。かれこれ小学生の頃からでしょうか。サウンドノベル、ご存じでしょうか？風景や登場人物の写真をバックに、文章を読み進めていき、主人公の選ぶ選択肢によって、その後の話の展開が変化していくゲームです。小説とは違い、キャスト等が設定されているので想像する楽しみ無くなりますが、面白いので機会があれば是非、お試しください。

私にとって、本を読むことは知識欲を奮い立たせる薬みたいなもので、高校生の時、数学の恩師が「どの单元でもいい、A4用紙を2m積み上げるくらい勉強したら、その分野のプロのスタート位置に立てる」その言葉を信じ、参考書や専門書を読み漁り、数学の研究者を目指した結果、気付いたら（建築の）研究者になっていました。

仕方なくやらなければならない勉強もあり、楽しいものばかりではありませんが、本との出会いが知識を得ることを楽しく感じさせ、皆さんの夢の実現に貢献することを願っています。

推薦図書

★フィボナッチ数の小宇宙

中村滋 (日本評論社)
1,1,2,3・・・から始まる単純な数列。この数列の見た目からは想像できない美しい規則性や、無数の公式、さらには自然界や人体に対する関連を紹介している。私が高校生時にほぼ毎日読んでいた本です。数学が好きな人は読んでみて下さい。

★不自然な収穫

Ingeborg Boyens (光文社)
遺伝子組み換え技術の話が色々な例を挙げて紹介しています。腐らないトマト、自然界の数十倍大きく、骨が少なく肉が多い魚。なんだかファストフードが食べられなくなりそうです。

★おいしいコーヒーのいれ方

村山由佳 (集英社文庫)
登場人物の人間模様が面白い恋愛小説です。私が中学生の頃から出版されていて、いまだ完結していない長編です。最近のテレビドラマ見るよりよっぽど面白いかと思います。

★殺戮にいたる病

我孫子武丸 (講談社文庫)
叙述トリックといった読者を騙す様な表現で書かれている特徴ある作品です。一種の推理小説なのですが、結末の大どんでん返しにビックリして、すぐ読み返してしまいます。グロテスクな表現が苦手な方はお控え下さい。

何を読むか？ どう読むか？

本年度より、高専間教員交流制度にて徳島県の阿南高専から赴任してまいりました、中島一です。一年間と短い期間ですが、よろしくお願いします。

私の読書に対する考え方を少しご紹介したいと思います。

私は幼少期、大の読書嫌いでした。マンガ以外の本といえば、恐竜図鑑に目を通したことがあるくらいでしょうか。その私が、読書をするようになったのは大学に入学してからでした。

最初は、本の内容を受け入れなければならないという感覚で読んでいたため、自分の考え方と合わないものが多く、読書に対する抵抗感が拭いきれませんでした。しかし、何度も苛立ちながら読み進める上で、あることに気づきました。それは、「内容を吸収するために読むのではなく、自分の考えの位置や形を把握するために読む。」ということです。

例を挙げると、測量をする際の三角法に似ていると思います。手の届かない位置(自分の考え方)を把握するためには、手に届く他の2点以上(本の内容、つまり他者の考え方)を把握すればよいというものです。数学のように、すぐに正しい答えが出るわけではありませんが、他の点(本)の数を増やすことによって、より自分を理解できるようになっていくと思います。

私は頑固な性格なので、他人の意見をなかなか受け入れることができずにいました。しかし、その頑固さはどれほどのものであるのか、自分の考え方は世間ではどういった位置にあるのか、などということを読書によって気

一般科目・理科 (体育) 中島一

づくことができたと感じています。(まだまだではありませんが…)

このような経緯から、私にとっての読書は、何を読んでもいいものになりました。確かにつまらない本を読むと嫌悪感を抱きます。しかし、「その内容に対して嫌悪感を抱く自分」を知ることができるのです。

人それぞれに考え方が違うので、私にとっての良書はみなさんにとっては、悪書になるかもしれません。ですから、読む本はなんでもいいと思います。大事なことは、どう考えて読むか、読んでどう考えるかということです。この私の考え方に対して、「そんなことはない!」と反論される方もいらっしゃるかもしれませんが、それこそが意味のあることだと思います。

皆さんが読書によって、より良い自己理解ができることを期待しています。

参考までに、私にとっての良書を紹介しておきます。

推薦図書

★99.9%は仮説

竹内薫 (光文社新書)
世の中で言われる「科学」のほとんどは、正しいかどうかかわかっていない「仮説」であることを例に、常識にとらわれない考え方を推奨する内容です。

★選択の科学

シーナ・アイエンガー (文藝春秋)
「選択」することの重要性を様々な例を挙げて、論理的に説明されています。日常は「選択」によって成り立っていることに気づくことができる一冊です。

教員交流を通して感じたこと、考えたこと

機械工学科 山中 昇

「感想」

平成 25 年度の高専間教員交流により 1 年間鹿児島高専（以下鹿高専と略記）機械工学科にお世話になった。教員交流の目的は鹿高専の先生と共に我々が担当している科目の教科書を執筆することでした。進み具合は中々ですが、数年で完成させるべく鋭意進めています。鹿高専では、授業として座学、実験と実習、部活顧問は卓球部を担当した。鹿高専では、公式行事（入学式など）では低学年は制服であるものの 1 年生から私服による通学です。昼休みの筋トレでよく一緒になっていた学生さんを 3、4 年生かと思っていたら 2 年生だったこともあり、最初はビックリしたものでした。また、鹿高専の体育祭の櫓絵（やぐらえ）のスケールの大きさにはビックリしました。

「対話」

鹿高専機械工学科の教員室は廊下に共用部分（通路）がありました。共用部分で先生達同士や先生と学生が話をする機会をよく見かけました。そのような光景を見ながら、社会人に必要な能力としてコミュニケーション能力が挙げられていることを思い出しました。そして、コミュニケーションとはどのようなことか、「会話」と「対話」を通して考えてみました。本の名前は忘れましたが、良い説明がありましたので書きます。以下は概略です。『「会話」と「対話」は違う。もともと日本人は、知っている者同士、同じ価値観を持っていることを前提としている人とはうまく話せる（「会話」）が、そうでない人と異なる価値観について話し合う（「対話」）習慣がない。』そこで、コミュニケーション能力を高めるには、学生の内に「対話」を理解し、様々な本や人との「対話」を通して、様々な価値観に触れてみるのが大事ではないかと思いました。

「エンジニア・オブリージュ」

交流が終わる頃に FD 講演会（教職員の研修会）での講演依頼があり、上記のことや以下に述べることを話しました。皆さんの参考になればと思います。今回の交流をきっかけに考えたことの一つに、哲学的には不十分な点もあるようには思いますが、端的に言う「高専からエンジニア・オブリージュを世界に広めよう」があります。皆さんも、柔道、剣道、武士道、茶道などは見たり聞いたりしたことがあると思います。また、部活でもやっていることでしょう。日本には文武両道という言葉があり今日では勉学と運動を指しています。いろいろな解釈があるようですが、ここでは、文を茶道、華道など、武を柔道、剣道などと考えましょう。日本人は、古来「道」を求めてきているようです。講道館柔道の精神は「技を習得し、精神の修養につとめて人格を完成させる」とし、茶道では「お茶を美味しく点てる、和敬清寂、一期一会、おもてなし」を旨とする。また、武士道は「武道・武術とノブレス・オブリージュ」を旨とするようです。さて、本校校歌の二番に「工学の道極めんと」とあります。この「工学の道」とは、どのようなものでしょうか？そこで、先の「道」の概念に従うなら、「技術的な面」に加えて「精神的な面」、つまり「専門的知識」に加えて「教養・（技術者）倫理など」を両道とすることが大切である。「ノブレス・オブリージュ」は端的に言う「身分の高い人はそれに応じて果たさなければならない社会的責任と義務がある」ということです。「工学の道」の概念を広めるためには、技術の社会に及ぼす影響の大きさもあるので、この考えを取り入れて工学を修める人は「エンジニア・オブリージュ」として戦国の錦の御旗よろしく推し進めることが大切であると考えます。ぜひ学生の皆さんも「専門的知識を修得すると共に、教養など人間性を磨いて」欲しいと思います。

新入生オリエンテーション開催される

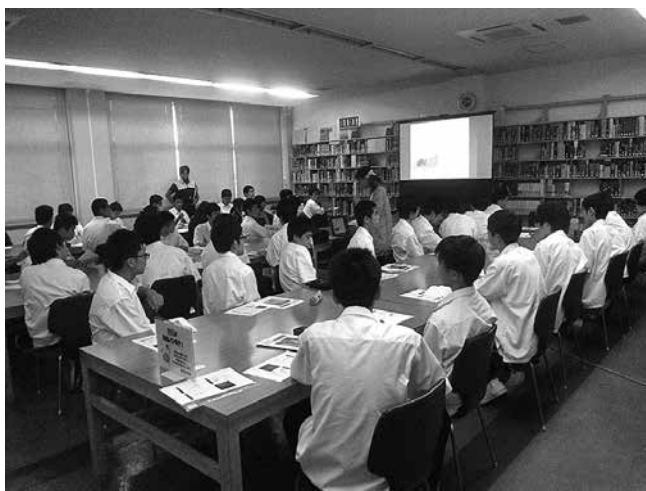
図書館では、6月の特活の時間に、1年担任のご協力を得て、「新入生オリエンテーション」が開催されました。

図書館スタッフの自己紹介の後で、望月図書館長から学生生活における読書の意義並びに図書館利用の重要性について講話がありました。その中で、一昨年刊行された「3年生までに読んでおきたい推薦図書」が紹介されました。

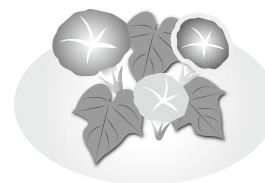
次に図書館から「開館時間」、「貸出・返却の手順」など、図書館の利用方法についての説明を行いました。

続いて、「図書館ツアー」と称して、図書館内の各配架場所(コーナー)を実際に回りながら説明しました。オリエンテーションの間は、学生は真剣な表情で説明を聞いていました。

最後は、実際に読みたい図書を選んでもらい、体験貸出を実施して、オリエンテーションを終えました。



平成26年度学生図書委員



図書委員長：仲澤 知剛（4学年・電気情報工学科）

図書副委員長：郡 勇人（4学年・機械工学科）

学科 学年	機械工学科	電子情報工学科	物質工学科	建築学科
1学年	山口 大地	吉松 駿平	後藤 光貴	長友 駆
2学年	酒井 乾至	川崎 浩史	武田 夏奈	児玉 莉子
3学年	清武 大晃	宮崎 愛美麗	川野 正博	埋金 新
4学年	郡 勇人	仲澤 知剛	花田 隆文	葉師寺 孝輔
5学年	山中 康成	榎田 宗丈	岩切 聡志	久徳 晃丈

図書委員長と副委員長の抱負

学生図書委員長 仲澤 知剛

今年度、図書委員長をさせていただくことになりました。昨年度の榎田さん・山中さんの功績を無にすることのないように一生懸命努力する所存です。また、地域との関わりも大切にしながら、下記のことを目標に努力していきます。

今年度も実施されるブックハンティングでは、ひとりでも多くの方々の手にとっていただけるような本、勉学のヒントとなる本、一息つくときにピッタリの本、地域の方々にも利用される本、これから先も読まれ続

けていくような本を、学生の代表として図書委員が精一杯探し出したいと思います。

また、毎年行われている『テーマ展示』を利用して、皆さんが高専に入学して一度も手にしたことのないような本、興味が湧く本、人生や目標の手助けとなるような本などを中心に紹介できたらと思います。

皆さんのお力になればと思いますので、どうか宜しくお願いします。

学生図書副委員長 郡 勇人

今回図書副委員長として一年間図書館のために活動することとなりました、郡 勇人と申します。私の図書副委員長になった目的は、図書館を利用する方々に利用しやすく、そして落ち着いて読書ができる環境を提供することにあります。そのために、私は図書館で本を探しやすいように、仕切りを挟んでみてはどうかと提案します。

この考えにいたった理由としては、私自身が実験用の参考書を探す際に、目的の本の探しにくさを感じたからです。図書館の本棚は種類ごとに分けられてこそ

ありますが、その種類の中にもたくさんの種類があり、普通に探すのは少し大変だと感じました。そんなときに着目したのが、よく書店などに置かれている索引順の仕切りです。これさえあれば、誰でも直感的に本を探しやすくなるのではと考えました。

そこで、まずは多くの方が探すであろう実験の参考書のコーナーに試験的に配置し、好評ならばそれを全体に拡大できればと考えています。

このように多くの活動を行って生きたいと考えています。まだまだ至らぬ点などたくさんあるでしょうが、皆さんのため精一杯活動していく所存ですので、応援のほどよろしくお祈いします。

平成26年度図書館カレンダー

○は休館日です

2014年(平成26年)4月

日	月	火	水	木	金	土
		○1	2	3	4	5
○6	7	8	9	10	11	12
○13	14	15	16	17	18	19
○20	21	22	23	24	25	26
○27	28	○29	30			

5月

日	月	火	水	木	金	土
				○1	2	○3
○4	○5	○6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	○16	○17
○18	19	20	21	22	23	24
○25	26	27	28	29	30	31

6月

日	月	火	水	木	金	土
○1	○2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	○13	○14
15	16	17	18	19	20	21
○22	23	24	25	26	27	28
○29	30					

7月

日	月	火	水	木	金	土
		○1	2	3	4	5
○6	7	8	9	10	11	12
○13	14	15	16	17	18	19
○20	○21	22	23	24	25	26
○27	28	29	30	○31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
○3	4	5	6	7	8	9
○10	○11	○12	○13	○14	○15	16
○17	18	19	20	21	22	23
○24	○25	26	27	28	○29	30
○31						

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	○2	3	4	5	6
○7	8	9	10	11	12	13
14	○15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
○28	29	30				

10月

日	月	火	水	木	金	土
			○1	2	3	4
○5	6	7	8	9	10	11
○12	○13	14	15	16	17	18
○19	20	21	22	23	24	25
○26	27	28	29	30	31	

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
○2	○3	○4	5	6	7	8
○9	10	11	12	13	14	15
○16	17	18	19	20	21	22
○23	○24	25	26	27	28	29
○30						

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
○7	○8	9	10	11	12	13
○14	15	16	17	18	19	20
○21	22	○23	24	25	26	○27
○28	○29	○30	○31			

2015年(平成27年)1月

日	月	火	水	木	金	土
				○1	○2	○3
○4	○5	6	7	8	9	10
○11	○12	13	14	15	○16	○17
○18	19	20	21	22	23	24
○25	26	27	28	29	30	31

2月

日	月	火	水	木	金	土
○1	○2	3	4	5	6	7
○8	9	10	○11	12	○13	○14
○15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
○1	○2	3	4	5	6	○7
○8	9	10	11	12	13	○14
○15	16	17	18	19	20	○21
○22	23	24	25	26	27	○28
○29	30	31				

図書館からのお知らせ

夏季休業期間中の長期貸出について

通常10日間の貸出期間を、夏季休業期間中は特別に長期貸出としますのでご利用ください。

帯出冊数：7冊以内 貸出開始：7月7日(月) 返却日：9月1日(月)

夏季休業期間中の開館について

夏季休業期間中の開館時間及び休館日は次のとおりです。

開館時間：平日 9時～20時(8月1日～31日は17時まで) / 土曜日 9時～17時

休館日：毎週日曜日と7月 1日、21日、31日、8月11日、12日、13日、14日、15日、29日



編/集/後/記

第75号の「図書館だより」には、4月に着任されました6名の教員に寄稿していただきました。それぞれに読書の思い出や楽しみ方等を語っていただき、最後にお薦めの本を推薦いただきました。皆さんも今回の寄稿文に刺激を受け、図書館の利用が増えることを期待しております。また、昨年度に教員交流をされた先生に、教員交流の体験談を寄稿していただきました。

新入生の皆さんには、図書館オリエンテーションが実施されましたので、おおいに図書館を活用して、今後の学習に役立ててもらいたいです。

次号の「図書館だより」は、読書感想文特集です。図書館では、課題図書をそれぞれ複数冊準備しています。夏休み中の図書館はどこよりも快適な場所です。図書館スタッフは、学生の積極的な利用を心よりお待ちしております。

発行に際しご多忙の中、ご寄稿いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。